

々」ト規定セルモ本法ハ之レヲ廢シ單ニ「事實ヲ摘示シテ」ト改メタルニヨリ苟モ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ行為ナル以上ハ獨リ惡事醜行ニ限ラス例令善行ヲ摘示シタル場合ト雖モ亦罪トナルコトアルヘシ

三、事實ノ摘示方法。ハ被害者ノ何人ナリヤヲ知り得ヘキ程度ヲ表示スルヲ必要トス故ニ某村民ニハ罪人多シトカ或ハ何聯隊ノ兵士ハ公徳心ナシト云フカ如キ漠然タル事實ノ摘示ハ罪トナラサルナリ然レトモ必スシモ被害者ノ氏名ヲ指示シテ攻撃スルヲ要セス暗ニ諷刺スルカ如キモ罪トナルヘキモノトス

四、次ニ本罪モ亦故意ヲ必要トスルヲ以テ惡意ナク全ク善意ニテナシタル行為ハ罪トナラサルモノトス例ヘハ友人ノ不名ヲ恢復スル目的ヲ以テ某ハ背徳ノ行為アリトノ醜聞ヲ耳ニセルモ余ハ之レヲ信ヒスト云フカ如キハ罪トナラス反之人ヲ攻撃スル目的ヲ以テ某ハ姦淫、詐僞等ノ罪惡ヲ犯シタルカ如シ然レトモ吾人ハ之レヲ信セスト云フカ如キハ罪トナルヘキモノトス蓋シ名譽毀損ノ故意アレハナリ

「問」 死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ノ處分如何

「答」 曰ク無罪トス但シ誣罔ニ出ツル時ハ一年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス（改刑二三）

〇八二舊刑三五九

死者カ名譽ヲ有セルヤ否ヤニ付テハ學者間議論アルモ死者ハ已ニ人格ヲ失ヒタル者

ナルヲ以テ人ニアラス若シ夫レ人ニアラサル以上ハ名譽ヲ有セサルモノトス而シテ死者ハ已ニ名譽權ヲ喪失セルモノナリトセハ之レヲ誹毀スルモ罪トナルヘキモノニアラス然レトモ死者ヲ誹毀シタルカタメ施テ其ノ子孫ノ名譽ヲ侵害スルコトアルヲ以テ余リ之レヲ不問ニ付スルコト能ハス之レ誹罔ニ出ツル場合ニ限り處罰スル所以ナリ而シテ玆ニ誣罔トハ虛言ヲ云フナリ從テ彼ノ歴史家カ眞實ナリト信シテ死者ノ行為ニ付キ論評ヲ試ミルカ如キハ決シテ法ノ禁スル處ニアラサルナリ

「問」 法人、狂人、幼者等ノ名譽ヲ毀損シタル者ノ處分如何

「答」 普通人ノ名譽ヲ毀損シタル場合ト等シク一年以下ノ懲役若シクハ禁錮又ハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス（改刑二三〇）

法人、狂人、幼者等カ名譽ヲ有スルヤ否ヤハ稍疑問ニ屬ス若シ名譽毀損ハ被害者ノ精神上ニ苦痛ヲ與フルモノトセハ法人、狂人、幼者ノ如キ精神的智覺ヲ缺ケル者ニ對シテハ本罪ハ成立セサルモノト云フヘシ然レトモ本罪ハ人ヨリ尊敬セラレヘキ權利ノ侵害ヲ罰スルモノナルヲ以テ如上ノ人ニ對シテモ本罪ヲ構成スヘキコト明カナリ故ニ例ヘハ某銀行ハ破産セリ某會社ハ不正行為ヲ營メリト云フカ如キハ法人ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヘシ

「問」 事實ヲ摘示セスシテ公然人ヲ侮辱シタル者ノ處分如何

〔答〕 拘留又ハ科料ニ處ス（改刑二三一舊刑四二六）

蓋シ事實ヲ摘示シテ名譽ヲ害シタルニ比シ其ノ情輕キヲ以テ輕キ刑ヲ科シタルモノナラン而シテ事實ヲ摘示セスシテ人ヲ侮辱スルトハ例ヘハ馬鹿者、狂人、盜人、惡漢ト云フカ如シ又侮辱トハあなざり、はずかしむるコトナリ而シテ名譽毀損即チ第二百三十條ノ場合ハ他人ニ向テ事實ヲ摘示スルモノニシテ本罪即チ第二百三十一條ノ侮辱ハ被害者自身ニ向ヒ直接ニ攻撃スルヲ云フナリ

〔問〕 官公吏ヲ侮辱シタル者ノ處分如何

〔答〕 舊刑法ハ官公吏侮辱罪ナルモノヲ設ケ官吏ノ威嚴ヲ保障セシモ本法ハ之レヲ削除セリ故ニ例令官公吏ヲ侮辱スルモ官吏侮辱罪ナル特別ノ犯罪ヲ構成セス蓋シ人權ノ發展ト云フヘシ但シ普通人ニ對スル侮辱罪即チ本法第二百三十一條ヲ以テ處罰サルハコトハ勿論ナリ（舊刑一四一）

〔問〕 名譽ニ對スル罪ハ親告罪ナリヤ

〔答〕 曰ク然リ（舊改刑二三二刑三六一）

蓋シ被害者ノ地位、身分等ニヨリ名譽ヲ異ニスルヲ以テ國家ヨリ進ンテ之レヲ處罰スル時ハ却テ被害者ノ迷惑ヲ生スルコトアルヲ以テナリ

〔問〕 本罪ノ未遂ハ之レヲ罰スルヤ

〔答〕 曰ク罰セス蓋シ明文ナケレハナリ

第三十五條 信用及ヒ業務ニ對スル罪（改刑二三三以下 舊刑二六七以下）

〔問〕 虚言又ハ偽計ヲ用ヒテ人ノ信用若シクハ業務ヲ妨害シタル而ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（改刑二三三舊刑二六七）

之レ舊刑法第二百六十七條乃至第二百七十二條ニ相當スル罪ニシテ本法第二百三十三條ニ之レヲ規定セリ曰ク「虚虚ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒテ云々」ト蓋シ吾人ノ信用ハ經濟上ニ於ケル一ノ財産ニシテ信用ノ有無厚薄ハ其ノ人ノ浮沈ニ關スルコト大ナリ殊ニ他人ノ盛業ヲ嫉ミテ信用ヲ毀損シ業務ヲ妨クカ如キハ屢アル處ニシテ嚴罰スルノ必要アリ之レ業務防害罪ト共ニ信用防害罪ヲ設ケタル所以ナリ  
虚偽ノ風説 トハ不實ノ風聞ニシテ流布 トハ云ヒ散ラスヲ云フ偽計 トハ所謂權謀術數ヲ云フ人ノ信用ヲ毀損スルトハ例ヘハ某ハ多大ノ負債ヲナセリ某ハ破産ノ悲運ニ陥レリト云フカ如シ業務ヲ妨害スル トハ某店ノ商品ハ品質不良ナリ某店ニハ粗製品多シト云フカ如シ

然レトモ被害者ヲ指示セス本店ノ商品ハ日本一ナリ他商店ノ品ハ悉ク不良品ナリト虚言ヲ流布スルカ如キハ決シテ罪トナラサルモノトス

〔問〕 威力ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害シタル者ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（改刑二三四、二三三舊刑二六八）

蓋シ威力ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害スルカ如キハ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害スルト敢テ擇フ所ナキヲ以テ兩者同一ノ刑ヲ科スルコト、セリ而シテ茲ニ威力ヲ用ヒテトハ暴行、脅迫、恐喝等ヲ云フモノニシテ例ヘハ余ト同營業ヲナス時ハ余ハ汝ヲ殺害スヘシト云フカ如シ

〔問〕 本罪ノ未遂ハ之レヲ罰スルヤ

〔答〕 曰ク罰セス蓋シ明文ナケレハナリ

第三十六章

竊盜及ヒ強盜ノ罪

（改刑二三五以下  
舊刑三六以下）

〔問〕 竊盜罪ノ處分如何

〔答〕 十年以下ノ懲役ニ處ス（改刑二三五舊刑三六六乃至三七四）

本法第三百六十六條ノ規定ニヨレハ「他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪トナシ云々」トアルヲ以テ竊盜罪ハ他人ノ財物ヲ竊取スルニヨリ成立スル犯罪ナリト云フコトヲ得ヘシ

〔1〕財物 トハ俗ニ物ヲ云フナリ民法第八十五條ノ規定ニヨレハ物トハ有體物ヲ云フ

ト規定セリ我刑法上ニ於ケル物モ有體物（有形物）ナルコト明カナルモ竊盜罪ニ於ケル物トハ動産ニ限ル物ニシテ（電氣、瓦期ヲモ含ム）不動産ニ對シテハ竊盜罪成立セス何トナレハ不動産ハ之レヲ所持シ其ノ場所ヲ移轉セシムルコト能ハサルヲ以テ謂所竊取スルコト能ハザレハナリ又死體、遺骨等ニ付ラハ墳墓ニ關スル罪ニヨリ（改刑一九〇、一九一）特別罪ヲ構成スルニヨリ本罪ヲ構成セス然レトモ全ク一種ノ骨董品ト化シタル物ハ財物タルコト疑ナシ彼ノ入齒、義手、義足等モ人體ニ附者セサル間ハ財物ナリ又空氣、光線、河海水等公共一般ニ使用シ得ヘキ物ハ茲ニ謂所財物ニアラサルナリ

〔2〕他人ノ財物ヲ竊盜スルニヨリ罪トナルモノナルヲ以テ自己ノ財物ニ付テハ本罪成立セス但シ自己ノ財物ト雖モ賃貸、入質等ヲナシ己ニ他人ノ占有中ニアルモノハ本法第二百四十二條ノ規定ニヨリ他人ノ財物ト見做サル、ニヨリ之レヲ盜取スル時ハ罪トナルヘキモノトス

〔3〕竊取 スルトハ他人ノ占有ヲ自己ノ占有ニ移スヲ云フナリ故ニ手足ヲ以テ轉展シ得サル物ハ竊取スルコトヲ得サルモノトス又竊取ハ暴行、脅迫ノ手段ナクシテ奪取スルヲ要ス之レ強取ト異ル所ナリ然レトモ他人ノ知ラサル間ニ盜取スルヲ要セス他人ノ面前ニ於テスルモ暴行、脅迫ノ手段ナクシテ盜取スル時ハ竊盜罪ニシテ強盜罪

ニアラス

要之ニ本罪ハ第一他人ノ第二財物ヲ第三竊取スルニヨリ成立スル犯罪ナリ

〔問〕 強盜罪ノ處分如何

〔答〕 五年以上ノ有期懲役ニ處ス(改刑二三六舊刑三七八、三七九)強盜罪トハ暴行又脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取スルヲ云フナリ而シテ強盜ト云ヒ竊盜ト云ヒ他人ノ財物ヲ盜取スル點ニ於テハ異ナラサルモ唯其ノ盜取ノ手段カ異ルノミ換言セハ暴行脅迫ヲ加ヘテ盜取シタル者ハ強盜ニシテ然ラサルモノハ竊盜ナリ而シテ暴行トハ腕力ノ不法ナル攻撃ニシテ例ヘハ手足ヲ縛シ、歐打スルカ如キ行為ヲ云ヒ脅迫トハ精神的ノ不法ナル攻撃即チ威嚇ヲ云フナリ例ヘハ汝ヲ殺害スヘシ、汝ヲ強姦スヘシト云フカ如シ次ニ強取トハ竊取ニ對スル語ニシテ威力ヲ用ヒテ強制的ニ奪取スルヲ云フナリ

〔問〕 暴行、脅迫ヲ用ヒテ財産上不法ノ利益ヲ得タル者ノ處分如何

〔答〕 強盜ト見做シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス(改刑二三六ノ二)之レ蓋シ其ノ罪惡ニ於テ強盜罪ト差ナキヲ以テナリ就中強盜ト異ル所ハ強盜ハ財物ヲ強取スルヲ要スルモ本罪ハ不法ノ利益ヲ得ルニアリ而シテ本問ニ所謂財産上不法ノ利益ヲ得ルトハ例ヘハ千圓ノ價格アル物品ヲ暴行、脅迫ヲ加ヘ百圓ニテ買ヒ取ルヲ云フナリ

リタルカ如シ

次ニ竊盜、強盜罪ハ性質上不動産ニ對シテハ成立セサルモ本罪ハ不動産ニ對シテモ成立スヘキモノトス故ニ例ヘハ暴行、脅迫ヲ用ヒテ他人ノ不動産ヲ自己ノ所有名義ニ移サシムルカ如キハ強盜罪ニアラスシテ本罪ヲ構成スヘキモノトス(準強盜罪?)

〔問〕 強盜ノ豫備ヲナシタル者ノ處分如何

〔答〕 二年以下ノ懲役ニ處ス(改刑二三七)

強盜罪ハ竊盜罪ニ比シ一層危險ナル犯罪ナルヲ以テ之レヲ未發ニ防ンニハ其ノ豫備ヲモ罰スルノ必要アリ之レ本罪ヲ設ケタル所以ナルヘシ

〔問〕 強盜人ヲ殺傷シタル時ノ處分如何

〔答〕 人ヲ傷ケタル時ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス若シ死ニ致シタル時ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(改刑二四〇舊刑三八〇)

強盜人ヲ殺傷シタル時ハ殺、傷ノ罪ト強盜罪トノ數罪俱發ナルモ本法第二百四十條ニ獨立ノ明文ナルヲ以テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス而シテ茲ニ殺、傷ハ故意ヲ要セス只暴行ノ故意アレハ足レリトス故ニ例ヘハ強盜人ヲ殺スノ意思ナク財物強取ノタメニ被害者ヲ歐打シタルニ直チニ絶命シタル如キ場合ニハ犯人ニ於テハ元ヨリ殺意ナシト雖モ本罪トナルコト明カナリ

〔問〕 強盜、婦女ヲ強姦シタル時ノ處分如何

〔答〕 無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタル時ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(改刑二四一舊刑二八一)

蓋シ強盜カ婦女ヲ強姦スルカ如キハ屢々惹起スル事件ニシテテ而モ最モ憎ムヘキ犯罪ナルヲ以テ科スルニ重刑ヲ以テセル所以ナリ

〔問〕 自己ノ財物ヲ盜取シタル者ノ處分如何

〔答〕 何人ト雖モ自己ノ財産ハ自由ニ處分スルノ權利ヲ有ス從テ自己ノ財物ニ付テハ犯罪行為ノ成立セサルヲ原則トス然レトモ自己ノ財物ト雖モ己ニ他人ノ權利ノ目的トナリタル以上ハ自由ニ處分スルコトヲ許サス例ヘハ他人ニ質物トナシ、賃貸ヲナシタル物件ノ如キハ例令自己ニ所有權アリト雖モ猥ニ之レヲ持チ去ルコトヲ得トセハ爲メニ該權利者ハ意外ノ迷惑ヲ感スルコトトナルヘシ故ニ本法ハ第二百四十二條ニ於テ「自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニヨリ他人ノ看守シタル物ナル時ハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト見做ス」ト規定セリ故ニ譬令自己ノ財物ト雖モ如上ノ場合ニハ竊盜又ハ竊盜罪ノ成立ヲ認ムルモノト云フヘシ例ヘハ修理ノタメ委託シ置キタル時計、賃貸シタル書籍、差押ヲ受ケタル物件、質入物件等ニ付テハ例令自己ノ財物ト雖モ之レヲ盜取スル時ハ盜犯トナルヘキモノトス

〔問〕 親族、家族間ニ於テモ盜犯成立スルヤ

〔答〕 (一) 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ竊盜又ハ其ノ未遂行為アルモ其ノ刑ヲ免除ス(改刑二四四舊刑三七七)

(二) 其ノ他ノ親族又ハ家族ニアリテハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモノトス(改刑二四四舊刑三七七)

茲ニ其ノ他ノ親族又ハ家族トハ同居セサル傍系血族(伯叔父母、從兄弟)姻族(配偶者ノ父母兄弟)等ヲ云フ

以上ノ規定ハ竊盜罪及ヒ其ノ未遂ニ限ルヲ以テ若シ竊盜ノ所爲アル時ハ例令親族、家族ノ關係アルモ罪トナルヘシ

〔問〕 親族又ハ家族ト然ラサル者トノ共犯ナル時ハ如何ニ處分スヘキヤ

〔答〕 親族又ハ家族ニ付テハ刑ノ免除又ハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモ(改刑二四四)

(四) 他ノ一方即チ共犯者ニ付テハ普通ノ刑ヲ科スヘキモノトス故例ヘハ子ト他人トカ共同シテ父ノ財物ヲ竊取シタリトセンカ子ハ第二百四十四條ニヨリ無罪トナルモ他ノ一人即チ共同者ハ第二百三十五條ニヨリ十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

〔問〕 電流ヲ盜ミタル者ノ處分如何

〔答〕 竊盜罪トナシ十年以下ノ懲役ニ處ス(改刑二四五)

舊法ニハ電流ニ關スル規定ナカリシモ本法ハ「電氣ハ財物ト見做ス」トノ規定ヲ設ケタルヲ以テ之レヲ盜取スル者ハ竊盜ヲ以テ論スヘキモノトス

第三十七章

詐偽及ヒ恐喝ノ罪(改刑二四六以下)

〔問〕 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ノ處分如何

〔答〕 之レ即チ詐偽ノ罪ニシテ十年以下ノ懲役ニ處ス(改刑二四六舊刑三九〇)

一、人ヲ欺罔スルトハ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ又ハ已ニ陥リタル錯誤ヲ利用スル

行爲ヲ云フモノニシテ俗ニ所謂欺クノ意ナリ例ヘハ銀時計ヲ金時計ト云ヒ硝子ヲ

ダイヤモンドナリト云フカ如シ而シテ被欺罔者ニ過失アルト否トハ毫モ問ハサル

モノトス例ヘハ五圓ノ兩換ヲ依頼セシニ先方ヨリ十圓ヲ誤テ交付セシヲ其ノ儘持

チ歸リタルカ如キハ即チ本罪ヲ構成スヘキモノトス

二、財物トハ彼ノ盜犯ノ場合ト異リ獨リ動産ニ限ラス不動産ヲモ含ムモノトス故

ニ例ヘハ一段歩ノ地所ヲ二段歩ナリト欺キテ賣却スルカ如キハ本罪トナルヘキモ

ノトス

三、騙取トハ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメタル結果財物ヲ取得スル行爲ヲ云フ從テ詐

偽ノ原因ナキ以上ハ騙取ナル結果ヲ生ゼサルモノトス

舊刑法第三百九條ニハ欺罔又ハ恐喝シテ財物若シクハ證書類ヲ騙取シタル者ハ云々  
二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加スルコト、セル  
モ本法ハ恐喝ニ付テハ第二百四十九條ヲ設ケ又ハ財物中ニハ證書類ヲ含ムコト勿論  
ナルヲ以テ之レヲ削除シ刑期ニ付テハ更ニ重ク罰シタリ

〔問〕 無錢飲食、無錢乘車、偽名者ノ處分如何

〔答〕 詐偽取財トシテ十年以下ノ懲役ニ處ス(改刑二四六)

法文ニハ欺偽ノ手段方法ヲ問ハサルヲ以テ苟モ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムル如キ行爲

ナル以上ハ悉ク詐偽罪ヲ以テ論スヘキモノトス

〔問〕 人ヲ欺偽シテ財産上不法ノ利益ヲ得タル者ノ處分如何

〔答〕 詐偽ノ罪トナシ十年以上ノ懲役ニ處ス(改刑二四六ノ二)

之レ舊刑法ニハ明文ヲ欠キタル罪ニシテ本法カ新ニ規定セルモノナリ而シテ之レヲ

詐偽ト同一ニ罰スル理由ハ蓋シ其ノ手段及被害ノ程度ニ於テ騙取ト敢テ異ナラサル

ヲ以テナリ

財産上不法ノ利益ヲ得ルトハ本法第二百三十六條第二項ニ所謂財産上不法ノ利益

ヲ得ルト同一意義ニシテ(準強盜罪)例ヘハ時價二百圓ノ純金時計ヲ鍍金製ナリ、

贓品ナリナト、瞞着シテ僅ニ代金二十圓ヲ以テ之レヲ買ヒ受クルカ如キ行爲ヲ云フ

ナリ

〔問〕 他人ノタメ事務ヲ所理スル者故意ヲ以テ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル者ノ處分如何

〔答〕 五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（改刑二四七）

之レ舊刑法ノ全ク欠如セル所ニシテ本法カ新ニ設ケタルモノナリ曰ク「他人ノタメ其ノ事務ヲ所理スル者自己若シクハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲナシ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル時ハ云々」ト蓋シ他人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ民法第七〇九條以下ノ規定ニヨリ損害賠償ノ請求ヲナシ得ヘシト雖モ時代ノ進歩ニ伴ヒ奸惡ノ徒カ比々トシテ斯カル不法ヲ敢テスルヲ以テ民法ニ一任セス刑事上ノ制裁ヲ科スルコトセリ本罪ハ學者ノ所謂背任罪ニシテ其ノ任務違背ニ對スル制裁ナリ而シテ茲ニ他人ノ爲メニ事務ヲ處理スル者トハ法律上當然ノ管理權アル者（例ヘハ父母、後見人、支配人等ノ如シ）ナルト否トヲ問ハス故ニ委任ニヨリ他人ノタメニ事務ヲ處理スル場合モ又事務管理（民六九七）ノ如キ場合モ共ニ本罪ヲ構成スヘキモノトス次ニ任務ニ背キタル者トハ例令ヘハ商店ノ番頭カ主人ニ損害ヲ加フルタメ百圓ノ商品ヲ五十圓ニテ販賣スルカ如ク又財産管理人カ被管理人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ管理ニ必要ナル行爲ヲナサ

シカ爲メ財産ノ價格カ著シク減少シタルカ如シ

〔問〕 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ノ處分如何

〔答〕 舊法第三百九十條ニ於テハ恐喝ニヨリ財物ヲ交付セシメタル場合モ詐僞ヲ以テ論セシモ本法ハ之レヲ改メ別ニ一罪ヲ設ケタリ曰ク「人ヲ恐喝シテ財産ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之レヲ得セシメタル者又同シ」ト（改刑二四九舊刑三九〇）

而シテ恐喝トハ人ヲ威嚇スル行爲ニシテ其ノ恐迫ト異ル處ハ只程度ノ差アルノミ即チ恐喝ハ間接ノ法方ヲ以テ威嚇スルヲ云ヒ（例ヘハ汝ノ惡事、醜行ヲ新聞紙ニ掲載スヘシト云フカ如シ）恐喝ハ直接危害ノ方法ヲ用ヒテ人ヲ威嚇スルヲ云フ例ヘハ汝ヲ殺害スヘシ、汝ノ家ヲ燒燬スヘシト云フカ如シ又恐迫ノ手段ハ法文ニ列記ノモノニ限ル（即チ生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ加害スルコトノ豫言）モ恐喝ハ然ラス

〔問〕 詐僞及恐喝ノ未遂ハ之レヲ罰スルヤ

〔答〕 曰ク然リ（改刑二五〇舊刑三九七）猶本罪ハ第三條第十四號ノ適用アルニヨリ外國ニ於ケル犯罪ニ對シテモ處罰スヘキモノトス

〔問〕 自己ノ財物ニ付テハ詐僞取財成立セサルヤ

〔答〕 本法第二百五十一條ニ於テ第二百四十二條ノ規定ヲ準用スル旨ノ規定アルヲ以テ自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ（抵當、質入、賃貸等ノ如シ）又ハ公務所ノ命ニヨリ他人ノ看守シタル物（例ヘハ差押物件ノ如シ）ヲ欺罔又ハ恐喝ノ行爲ニヨリ騙取、交付、又ハ不法ノ利益ヲ得タルカ如キ行爲アル時ハ詐僞又ハ恐喝ノ罪トナルヘキモノトス

〔問〕 親族又ハ家族ニ對シ詐欺又ハ恐喝ノ所爲アリタル時ハ如何ニ處分スヘキヤ

〔答〕 本法第二百五十一條ニ於テ第二百四十四條ヲ準用スル旨ノ規定アルヲ以テ直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族間ニ於テハ其ノ刑ヲ免除シ其ノ他ノ親族又ハ家族ニ對シテハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモノトス然レトモ之レ等ノ親族又ハ家族ト共同シテ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ其ノ者ノミ普通ノ刑ヲ科セラルヘキモノトス

〔問〕 電氣ニ付テハ詐僞及ヒ恐喝罪成立セサルヤ

〔答〕 曰ク成立ス（改刑二五二、二四五）  
蓋シ本法ハ電氣ハ之レヲ財物ト見做スト規定セルヲ以テ詐僞又ハ恐喝ニヨリ電流ヲ騙取、交付又ハ不法ノ利益ヲ得ルカ如キ行爲アル時ハ之レ即チ財物ニ對スル行爲ナルヲ以テ詐僞又ハ恐喝罪ヲ構成スヘキモノトス

### 第二十八章

### 横領ノ罪（改刑三五以下 舊刑三九五以下）

〔問〕 横領ノ罪トハ何ソ

〔答〕 横領ハ舊刑法ニ所謂委託物費消ト官吏監守盜罪トヲ合シタル刑ニ相當スル犯罪ニシテ自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ横領スルニヨリ成立スル犯罪ナリ唯舊法ト罪名ヲ異ニスルノミニシテ異ル所ハ刑期ニシテ舊法ハ一般ニ輕ク罰シタルモ本法ハ之レヲ重ク罰シタリ

○  
横領 スルトハ權利ナクシテ他人ノ財物ヲ支配（例ヘハ使用、收益、處分等所有權類似ノ行爲ヲナスコト）スルヲ云フナリ例ヘハ他人ヨリ賃借セル物件ヲ賣却シ又ハ質入スルカ如シ而シテ横領罪ノ目的物タル財物ハ彼ノ竊盜ノ場合ノ如ク動産ニ限ルヤ將タ不動産ニ對シテモ横領罪成立スルヤニ付テハ學者間議論一定セスト雖モ動産不動産ノ別ナク苟モ財物ナル以上ハ本罪成立スト云フヲ可トス故ニ例ヘハ不動産ヲ賃借セル者、又ハ不動産ノ管理ヲ命セラレタル者カ之レヲ賣却スルカ如キハ本罪ヲ構成スヘキモノトス

〔問〕 自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ横領シタル者ノ處分如何

〔答〕 五年以下ノ懲役ニ處ス（改刑二五二舊刑三九五）



舊法ハ之ノ場合ヲ僅ニ一月以上二年以下ノ禁錮ノ刑ヲ科スルコト、セシモ輕キニ失  
スルノ疑アルヲ以テ本法ハ之レヲ右ノ如ク改メタリ  
自己ノ占有スル他人ノ物トハ自己カ正當ニ占有スル物ヲ云フナリ例ヘハ預リ物、  
質物等ノ如シ故ニ不正ニ占有セル物例ヘハ自己カ盜ミ來リタル物品ハ正當ノ占有ニ  
アラサルヲ以テ之レヲ賣却スルモ盜罪ト横領罪ノ二罪トナラスシテ盜犯ノミヲ構成  
スヘキモノトス（改刑五四）

之レヲ要スルニ横領罪ハ自己ノ正當ニ占有スル物ニ對シテ成立シ、強盜罪、詐偽取  
財罪、恐喝罪ハ他人ノ占有セル物ニ對シテ成立スルモノナリ若シ夫レ他人ノ財物ナ  
ル點ニ於テハ兩者同一ナルモ只其ノ侵害ノ手段ヲ異ニスルノミ然リ而シテ盜犯、詐  
偽、恐喝罪ト横領罪ト其ノ刑ヲ異ニセル所ハ其ノ手段ニ於テ頗ル憎ムヘキモノアル  
ト否トニアリ

〔問〕 犯罪ニヨリ得タル物品ノ委託ヲ受ケ之レヲ消費シタル者ノ處分如何

〔答〕 横領罪トシテ五年以下ノ懲役ニ處ス（改刑二五二）

蓋シ本問ハ學者間議論ノ存スル所ナルモ苟モ自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ横領スル  
以上ハ其ノ占有ノ原因如何ハ本罪ノ成立ニ何等ノ關係ヲ及ホササルモノトス故ニ假  
令犯罪ニヨリテ得タル物品即チ贓品（例ヘハ五百圓ノ盜品ヲ預リ其ノ儘之レヲ消費

シタルカ如シ）ト雖モ他人ノ物ナルコト明カナルヲ以テ之レヲ横領スル時ハ横領罪  
ヲ構成スルコト勿論ナリトス

〔問〕 業務上自己ノ占有セル他人ノ物ヲ横領シタル者ノ處分如何

〔答〕 一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（改刑二五三舊刑二八九）

普通ノ横領罪ニ於テハ五年以下ノ懲役ナルモ本問ノ場合ハ十年以下ノ重刑ヲ科スル  
所以ハ蓋シ業務上他人ノ物ヲ占有スル場合ハ一層保管ノ責任アルヲ以テナリ而シテ  
舊刑法第二百八十九條ニ於テハ本罪ニ相當スル刑ヲ設ケ「官吏自ラ其ノ監守スル所  
ノ金穀物件ヲ盜取シタル者ハ輕懲役ニ處ス」ト規定セシモ本法ハ之ノ官吏云々ヲ改  
メテ業務上ト規定セリ故ニ管ニ公務員ニ限ラス私人ニ於テモ業務上占有スル者（例  
ヘハ質屋營業、旅店、料理店等）ハ悉ク本罪ヲ構成スヘキモノトス

〔問〕 遺失物、漂流物其ノ他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ノ處分如何

〔答〕 一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス（改刑二五四舊刑三八  
五、三八六）

之レ所謂遺失物隱匿罪ニシテ舊法第三百八十五條ト同一ノ規定ナリ唯異ル處ハ舊法  
ニハ「十一日以上三月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス」トセルヲ  
本法ハ更ニ重ク罰シタルノミ

本法第二百五十四條ハ權利者カ離脱ノ意思ナクシテ占有ヲ失ヒタル物ヲ横領スルニヨリ成立スル犯罪ニシテ遺失物、漂流物ハ其ノ一例ニ過キサルモノトス

一、遺失物 トハ拋棄スル意思ナクシテ占有ヲ失ヒ發見者カ原所有者ヲ知り得サル物ニシテ之レヲ拾得シタル者ハ特別法（明治三二年法律第七八號遺失物法）ノ規定ニヨリ速ニ官ニ申告スヘキ義務アルモノトス（民二四〇）

二、漂流物 トハ水上ニ於テ占有ヲ失ヒタル物ヲ云フ

三、其ノ他占有ヲ離レタル物 トハ遺失物、漂流物以外ノ凡テノ占有ヲ離レタル物ヲ云フ例ヘハ埋藏物、忘レ置キタル物等ノ如シ

次ニ遺失物法第十六條ノ規定ハ本法ノ規定ニヨリ自然消滅シタルモノトス

〔問〕 來客カ忘レ置キタル物品ヲ横領シタル物ノ處分如何

〔答〕 遺失物隱匿罪トシテ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス（改刑二五四）

本問ハ學者間議論蓋シキ問題ニシテ或ハ竊盜罪（改刑二三五）或ハ委托物費消罪（改刑二五二）或ハ遺失物隱匿罪（改刑二五四）等諸説紛々トシテ一定セスト雖モ我大審院ノ判例ニヨレハ遺失物隱匿罪ヲ以テ罰スヘキモノトセリ（三二二判例）

要スルニ本問ハ來客ノ置キ忘レタル物品ノ性質如何ニヨリテ決スヘキモノトス換言

セバ遺失物ナリヤ、委托物ナリヤ將タ其ノ何レニモ屬セサルヤニ因テ決スヘキモノトス而シテ委托物ハ他人ヨリ委托サレタルニヨリ自己カ占有スルモノナルヲ以テ單ニ忘レテ去リタル物ハ委托物ニアラス又竊盜罪ハ他人ノ占有セル物ヲ竊取スルニヨリ罪トナルモノナルヲ以テ本問ノ如ク已ニ他人ノ占有ヲ離脱シタル物ハ盜犯ノ目的物トナラス若シ夫レ兩者何レニモ屬セストセハ遺失物隱匿罪ヲ以テ論スヘキモノトス若シ忘レ物ハ權利者カ拋棄スルノ意思ナクシテ其ノ占有ヲ失ヒタル物ナレハナリ

〔問〕 紙屑中ヨリ紙幣ヲ發見シテ之レヲ消費シタル者ノ處分如何

〔答〕 遺失物ニ關スル罪トナシ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス（改刑二五四民二四〇）

本問ニ付テハ學說一定セス曰ク竊盜、曰ク委托物費消、曰ク遺失物隱匿ナリ 就中遺失物ニ關スル罪ヲ以テ論スルヲ可トス蓋シ遺失物ハ權利者カ拋棄ノ意思ナクシテ所持ヲ失ヒ發見者カ原所持人ヲ知ルコトヲ得サル物ヲ云フモノナルヲ以テ紙屑中ノ紙幣ノ如キハ正ニ之レニ該當ス尙ホ遺失物法第十二條ニ於テ「誤テ占有シタル物件、他人ノ置キ去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及ヒ民法第二百四十條ヲ準用ス云々」ト規定セルヲ以テ本問ハ正シク之レニ該當スヘシ

〔問〕 親族、家族間ニ於テ横領罪成立スルヤ

〔答〕 曰ク成立セス（改刑二五五、二四四）

蓋シ本法第二百五十五條ニ於テハ第二百四十四條ヲ準用セルヲ以テ直系血族、配偶者及同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ横領罪ニ當ルヘキ所爲アルモ無罪トス故ニ例ヘハ子カ父ヨリ委託サレタル金品ヲ費消シ、夫カ妻ヨリ保管ヲ托サレタル物品ヲ入質又ハ賣買スルモ罪トナラサルナリ  
反之若シ傍系血族又ハ同居セサル親族若シクハ家族カ如上ノ犯行ヲナシタル時ハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモノトス例ヘハ他家ニアル伯、叔父母ヨリ委託サレタル物件ヲ消費シ亦從兄弟ノ遺失物ヲ横領スルカ如キ所爲ハ告訴ヲ待テ所論スヘキモノトス

### 第三十九章

#### 贓物ニ關スル罪

（改刑二五六以下  
舊刑三九九以下）

〔問〕 贓物トハ何ソ

〔答〕 贓物トハ犯罪ニヨリテ得タル物件ヲ云フナリ

例ヘハ盜犯、詐僞等ニ因テ得タル金錢衣服其ノ他ノ物品ノ如シ而リ而シテ贓物ニ關スル罪ヲ設ケタル所以ハ贓物ハ被害者ヨリ其ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ（刑訴五）贓物ノ受領、販賣又ハ取次等ヲナスカ如キハ一方ニ於テ罪ヲ助勢

シ他方ニ於テハ被害者ノ返還請求ヲ困難ナラシムルヲ以テナリ

〔問〕 贓物ヲ收受シタル者ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役ニ處ス（改刑二五六舊刑三九九）

之レ贓物ナルコトヲ知テ收受スルニ因リ罪トナルモノヲ以テ若シ贓物ナルコトヲ知ラスシテ收受シタル時ハ罪トナルヘキモノニアラス從テ收受後ニ於テ贓物ナルコトヲ發見スルモ罪トナルヘキモノニアラス而シテ茲ニ收受トハ受ケ取ルノ意ニシテ有償ナルト無償ナルトヲ問ハス例ヘハ贈與、質入、交換等ノ如シ

〔問〕 贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲナシタル者ノ處分如何

〔答〕 十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

思フニ本問ノ所爲ハ犯罪ヲ助長スル行爲ニシテ單ニ收受シタルニ比シ頗ル憎ムヘキモノアルヲ以テ之レヲ重ク罰スルモノナリ而シテ運搬トハ普通ノ運送ヲ云フ寄藏トハ贓物ヲ隱蔽シ其ノ發見ヲ防止スル所爲ヲ云フ故買トハ贓物ナルコトヲ知テ故意ニ買得スルヲ云フ牙保ハ所謂取次ヲナスヲ云フ例ヘハ贓物ノ入質、賣買等ノ周旋ヲナスカ如シ（改刑二五六ノ二）

〔問〕 親族ノ贓物ヲ收受、故買、寄藏、牙保シタル者ノ處分如何

〔答〕 無罪トス（改刑二五七）

之蓋シ舊法ノ全ク欠如セルニ處シテ本法カ新ニ規定セルモノナリ而シテ本法ニ於テハ直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ之レ等ノ者ノ配偶者ニ限リ其ノ刑ヲ免除スルコト、セリ蓋シ如上ノ親族、家族間ニ於テ贓物ヲ收受、寄藏、故買、牙保等ノ幫助的舉動ヲナスハ人情ノ然ラシムル處ナルヲ以テ之レヲ罰セサルコト、セルナリ之レ猶ホ犯人藏匿及ヒ證據湮滅罪ニ於ケル第百〇五條ニ於テ親族カ犯人ナル時ハ之レ藏匿シ又ハ證據湮滅ノ行爲アルモ之レヲ罰セストセル規定ト同一精神ニ出テタルモノナリ

〔問〕 十四歳未満ノ幼者カ盜取シ來リタル物件ヲ故買シタル者ノ處分如何

〔答〕 無罪トス

蓋シ十四歳未満ノ者ノ行爲ハ犯罪ヲ構成セサルコトハ本法第四十一條ノ規定スル所ナリ果シテ然ラハ本問ノ物件ハ贓物ニアラス何トナレハ贓物トハ犯罪ニヨリテ得タル物件ヲ云フモノナレハナリ若シ夫レ贓物ニアラストセハ之レヲ故買スルモ罪トナルヘキモノニアラサルナリ

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪(改刑二五八以下)

〔問〕 公務所ノ用ニ供スル文章ヲ毀棄シタル者ノ處分如何

〔答〕 三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(改刑二五八舊刑二〇二、二〇三)

公務所ノ用ニ供スル文章トハ公務所ノ保管ニ屬スル文章ヲ云フモノニシテ其ノ公文章ナルト私文章ナルトヲ問ハサルモノトス  
毀棄スルトハ 毀損スルノ意ニシテ文章ノ効力ヲ滅失セシムヘキ行爲ヲ云フ而シテ其ノ手段ノ如何ハ問ハサルナリ故ニ例ヘハ墨ヲ以テ抹消スルモ或ハ破棄スルモ或ハ他ノ方法ヲ以テ文意ヲ不明ナラシムルモ可ナリ然レトモ白紙ノ部分ヲ剪除スルカ如キハ所謂文章ノ毀損ニアラサルナリ

〔問〕 權利義務ニ關スル文章ヲ毀損シタル者ノ處分如何

〔答〕 五年以下ノ懲役ニ處ス但シ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス(改刑二五九、二六四)

之レ舊法第四百二十四條ノ規定スル所ニシテ同條ニハ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スルコト、セリ而シテ茲ニ權利義務ニ關スル他人ノ文章トハ私人ノ保管ニ屬スル文章ニシテ其ノ文章カ公成タル私成タルトハ問ハス要ハ權利義務ヲ證明スル證書ナレハ足レリトス例ヘハ公務員ノ認證シタル賭本又ハ私成ノ賣買契約證、贈與ノ證書等ノ如シ

〔問〕 權利、義務ニ關セサル他人ノ文書ヲ毀損シタル者ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス但シ告訴ヲ待テ其ノ

罪ヲ論ス（改刑二六一、二六四）

蓋シ本法第二百五十九條ハ權利義務ニ關スル文書ニ對スル條文ナルヲ以テ本問ノ如キ權利義務ニ關セサル文書ニ付テハ同條ヲ適用スル能ハス故ニ第二百六十一條ニ謂所「前三條ニ記載シタル以外ノ物」トシテ如上ノ如ク處罰スヘキモノトス而シテ本問ノ權利義務ニ關セサル文書トハ例ヘハ記行文、艶文、書籍ノ寫シ、詩歌等ノ如キモノヲ云フナリ

〔問〕 建造物、艦船以外ノ物件ヲ損壞シタル者ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス但シ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス（改刑二六一、二六四）

之レ舊刑法第四百十八條ニ相當スル場合ニシテ同條ニヨレハ「人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ裝飾又ハ田圃ノ樊圍、牧場ノ柵欄ヲ毀損シタル者ハ云々」ト規定セリ而シテ本法ハ建造物又ハ艦船ニ付テハ第二百六十條ノ明文ヲ設ケ之レ以外ノ物件ニ付テハ第二百六十一條ニヨリ如上ノ刑ヲ科スルコト、セリ而シテ本法ハ舊法ノ如ク被害物件ヲ列記セサルヲ以テ建造物又ハ艦船以外ノ物件ナル以上ハ（例ヘハ木柵、室内ノ裝飾品、机、硯、食器、衣類、褥具、植物等）如何ナル物ト雖モ悉ク第二百六十一條ニヨリ處罰スヘキモノトス

〔問〕 人ノ占有セル動物ヲ傷害シタル者ノ處分如何

〔答〕 三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス但シ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス（改刑二六一、二六四）

蓋シ舊刑法第四百二十二條同第四百二十三條ニ相當スル場合ニシテ舊法ハ被害物體ヲ家畜ニ限リタルモ本法ハ斯カル制限ヲ加ヘサルヲ以テ苟モ人ノ占有スル動物ナル以上ハ凡テ本罪ヲ構成スヘキモノトス然レトモ未タ人ノ占有ニ屬セサル動物例ヘハ大空ヲ飛翔セル鳥類、山谷ニ住スル野獸ノ類ヲ傷害スルモ罪トナラサルナリ但シ狩獵法其ノ他ノ特別法ニヨリ處罰サルルヤ否ヤハ別問題トス

〔問〕 差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ、又ハ賃貸シタル自己ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ノ處分如何

〔答〕 此ノ場合ニハ他人ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタルト同一ノ刑ヲ科ス（改刑二五九、二六〇、二六一、二六四）

蓋シ何人ト雖モ自己ノ所有物ニ對シテ他ノ干涉ヲ受ケサルヲ原則トスルヲ以テ之レヲ損壞スルモ傷害スルモ全ク所有者ノ自由タリ然レトモ已ニ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ（例令ハ質權、抵當權ヲ設定スルカ如シ）又ハ賃貸シタル物ト自由ニ損壞又ハ傷害スルコトヲ得ルモノトセハ爲メニ相手方ニ多大ノ損害ヲ加フル恐レアルヲ以テ

之レヲ禁止スルノ必要アリ之レ本法第二百六十二條ニ於テ斯カル場合ニハ他人ノ物ヲ損壞又ハ毀害シタルト同一ノ刑罰ヲ科スルコトヲ明ニセル所以ナリ

「問」 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ノ處分如何

「答」 六月以下ノ懲役若シクハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若シクハ科料ニ處ス但シ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス（改刑二六三、二六四）

之レ本法ニ於テ新ニ設ケタル犯罪ニシテ他人ノ信書ヲ隱匿スルニヨリ罪トナルヘキモノトス蓋シ信書ノ秘密ヲ犯シタル者ニ付テハ第三百三十三條ノ明文アルモ同條ノ罪ハ封緘シタル信書ヲ開披スルコトヲ要スルヲ以テ若シ開披セズ又ハ封緘セサル信書ヲ隱匿スル時ハ同條ニヨリ所謂スルコト能ハサル結果ヲ生ス而モ斯カル場合ハ實際ニ於テ少シトセス之レ次法第二百六十三條ニ於テ如上ノ刑罰ヲ設タル所以ナリ  
信書開披罪ニ於テハ（改刑一三三）封緘シタル信書ト規定セルモ本問（隱匿罪）即チ第二百六十三條ニハ單ニ信書ト云ヘルヲ以テ封緘ノ有無ハ問ハサルナリ又信書ノ内容如何ヲ問ハサルヲ以テ權利義務ニ關スルモノナルト然ラサルモノナルトヲ問ハス從テ彼ノ犯罪人間ノ信書、情人間ノ艶書等一切ノ文書ヲ含ムモノトス隱匿ハ俗ニかくすコトナリ隱匿シテ後日開披スル時ハ隱匿罪ト開披罪ノ二罪ヲ構成ス（舊刑四五、一三三、一六三）

明治四十四年五月十日印刷  
明治四十四年五月十三日發行

定價 金六拾錢

著者 吉田九一郎

東京市本郷區駒込蓬萊町廿五番地

發行者 本多實誠

東京市本郷區駒込片町十八番地

印刷者 玉井重作

東京市本郷區駒込片町十八番地

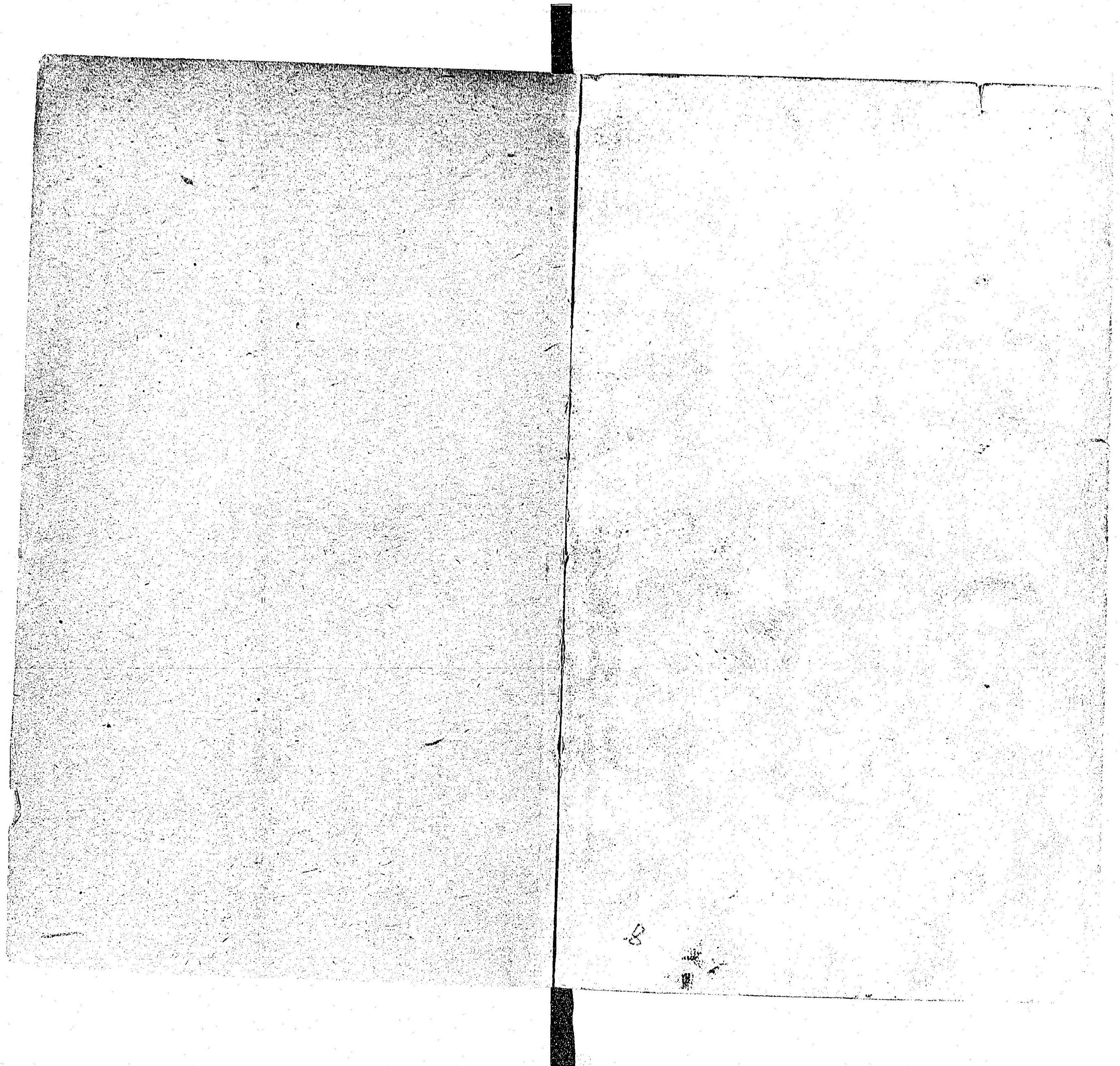
印刷所 芙蓉舎印刷會社



東京市本郷區駒込蓬萊町廿五番地

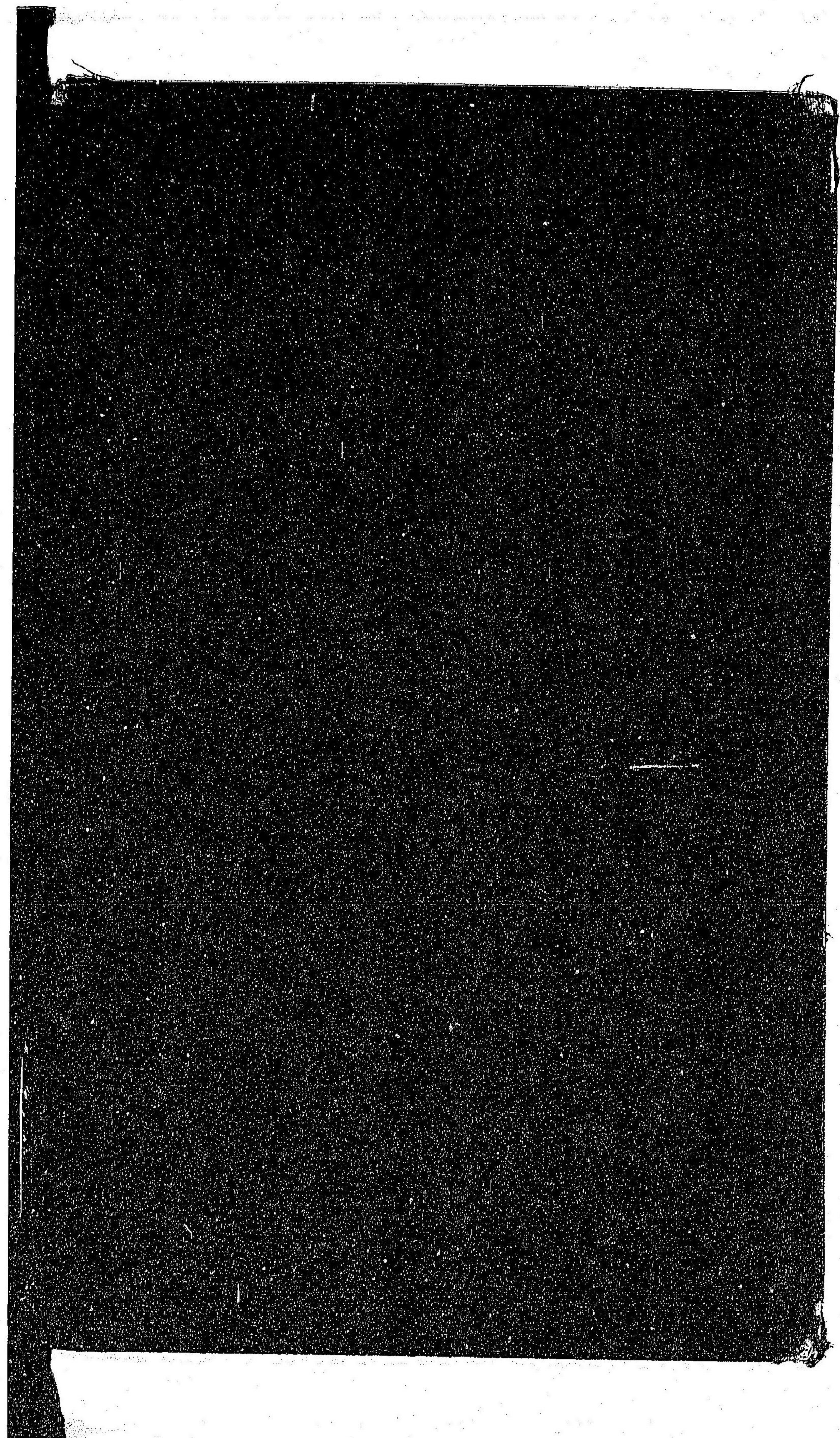
發行所 東京法政學會

68
568





68  
361



68  
568

M

035731-000-2

68-568

刑法質疑録

吉田 九一郎 / 著

M44

BBP-0306

